

Epistula

大分県立芸術文化短期大学広報誌「エピストゥラ」

大分県立
芸術文化
短期大学

OITA
PREFECTURAL
COLLEGE OF
ARTS
AND CULTURE

2023
Spring
Vol.70



美術科美術専攻、専攻科造形専攻美術コース2年生

特集記事 美術・音楽・国際・情コミ 全4学科1年間の活動報告

Epistula

OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

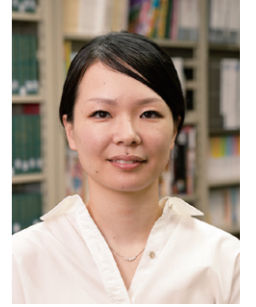
2023 Spring
Vol.70

大分県立芸術文化短期大学広報誌「エピストゥラ」2023年3月10日発行 通巻70号
大分県立芸術文化短期大学 〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 / TEL.097-545-0542(代表) / FAX.097-545-0543



恩師からのお別れの言葉

Farewell words from your mentor.



国際総合学科
長福 香菜

3月をもって芸短を離れることとなりました。授業や校務等を通して学生や教職員の皆さんとともに大分という地で時間を過ごせたことに心より感謝しています。

特に「卒業研究」や「教養ゼミ」の授業は思い出深いです。文学作品について皆で語り合い、考え合うことによって議論が深みを持ち、広がっていく。その感覚を得られる空間を学生と共有できたことは何ものにも代えがたい喜びでした。

そして、「国際」を冠する学科に所属しているからこそ、日本文学を通じて「日本」を伝えたいとの思いを抱きながら過ごしてきた日々が新たな道を切り開く決心をさせてくれました。そこには、常に学びがあったからです。

だからこそ、学生の皆さんには謙虚に学ぶ姿勢を持ち続けてほしいと願います。その姿勢が必ず自らの成長を促してくれますから。どうか芸短での学びが学生の皆さんの明るい未来に繋がりますように。

EVENT CALENDAR

イベントカレンダー

MARCH 3月 ▶ APRIL 4月

MARCH 3月

- 17日(金) 第61回卒業演奏会
- 19日(日) 第39回修了演奏会
- 20日(月) 卒業・修了式



APRIL 4月

- 5日(水) 入学式



※各イベントは変更になる場合があります

情報をいち早くGet!

大分県立芸術文化短期大学

大分県立芸術文化短期大学の公式SNSでは、本学が主催するイベント・展覧会等のお知らせをはじめ、キャンパス内の様子や学生たちが行うさまざまな活動について報告しています。また、学科や研究室のほか、サークル、イベント等でもSNSを立ち上げています。

<https://www.oita-pjc.ac.jp> 芸文短大 検索

大分県立
芸術文化
短期大学



Facebook



Instagram



Twitter



Youtube

美術科ビジュアルデザインコース



Facebook



Twitter

美術科グラフィックアートコース



Facebook



Instagram

美術科プロダクトデザインコース



Facebook

音楽科



Facebook



Instagram



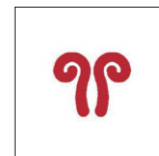
Twitter

国際総合学科



Facebook

情報コミュニケーション学科



Facebook



Instagram

東京ミッドタウン・デザインハブ「ゼミ展2023」に西口ゼミが出展しました

東京都港区にあるアートギャラリー「東京ミッドタウン・デザインハブ」にて、大学・専門学校の教育課程や研究室で取り組まれている課題の内容と、学生作品を紹介する「ゼミ展」に、本学ビジュアルデザインコース西口ゼミが出展。フリーペーパーを制作した専攻科1年生で訪問しました。

1月21日には出展ゼミによるギャラリーツアーが行われ、本学もオンラインで参加しました。



「デザインエイド2022」にて学生賞を受賞しました

大分市主催の「おおいたデザインエイドパッケージデザインコンテスト2022」が開催され、ビジュアルデザインコースの学生4名が学生賞を受賞しました。

『おおいたデザイン・エイド』は、大分市がクリエイティブ産業の裾野の拡大・市内クリエイターの育成・クリエイターの発想や技術を活用した中小企業の販路拡大を目的に実施しているもので、今年で5回目となります。



近藤 里菜
(デザイン専攻1年)



黒崎 美羽
(専攻科造形専攻1年)



中尾 美怜
(デザイン専攻1年)



前園 明日実
(デザイン専攻1年)

「2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞」に専攻科生の作品が入選しました

公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞」にて、ビジュアルデザインコース黒崎美羽さんの卒業制作(短大2年次/現在専攻科生)「日美ノ野彩模様」が入選しました。「グッドデザイン・ニューホープ賞」(GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD)は、クリエイターを目指す各種専修専門学校・大学・大学院の学生、卒業・修了後間もないクリエイターを対象とした、2022年新設の新しいデザイン賞です。



黒崎美羽さんの作品
「日美ノ野彩模様」



So GRAPHICS2023実施報告

2月2日(木)～2月5日(日)、iichiko総合文化センターB1 県民ギャラリーにて、グラフィックアートコースによる学生・教員による作品展「So GRAPHICS2023」を開催、複製芸術によるプリント表現を主にフォトグラフィ、シルクスクリーン、リトグラフ等27点の作品を展示。

またゲストとしてアーティストの大坂秩加氏をお呼びし、会場にてシンポジウム「グラフィックアート対談」を開催。関係者の方や保護者の皆様、他多くの方々にご観覧・ご参加いただき、展示をはじめ新しい交流の場となりました。



商業施設で「スギのカタチ」展を開催しました

1月24日(火)～2月5日(日)、無印良品トキハわさだタウン店にて、産学官連携による成果発表「スギのカタチ」展を開催しました。本展示は日田家具衆(ひたかぐら)、大分県産業科学技術センター、大分県立芸術文化短期大学の産学官連携による成果発表展示で、今回は、2021年と2022年の取り組みの一部を展示しました。



県内各地で多彩なアート活動

今年も作品展にワークショップ、講演会などさまざまな活動を積極的に大分県内各地で行いました。



2023年1月31日(火)～2月5日(日)に大分県立美術館(1F展示室A:デザイン専攻、3F展示室B:美術専攻)にて「第61回美術科卒業・修了制作展」を開催。短大生は2年間、専攻科生は4年間、芸文短大で美術やデザインを専門的に学び、その集大成となる研究・作品発表の場として、全93名による142点の作品を展示しました。

各分野の関係者の方や、県民・保護者の皆様、高校生と二千人を超える方々に観覧いただきました。

「第61回美術科卒業・修了制作展」を開催

「フランチェスコ・ミケーリ氏による講演会・オペラマスタークラス」を開催しました

9月28日(水)、本学音楽ホールで、ドニゼッティ歌劇場財団芸術監督のフランチェスコ・ミケーリ氏による講演会・オペラマスタークラスを開催しました。

歌曲の誕生した時代背景を踏まえ、演じる役の社会的立場と人間関係を解説しながら、言葉に合わせた立ち振る舞いやその表現手法など、実演を交えて徹底的に指導していただきました。学生達は、一流の演出家からのレッスンを受講できたことを大いに喜びました。



電子音響音楽演奏会を開催しました

1月13日(金)、本学音楽ホールで「電子音響音楽演奏会」を開催し、音楽情報機器演習(担当:松宮圭太講師)を履修する学生9名が制作した楽曲等を披露しました。

音の響きに配慮して音楽専用ホールの全方位にスピーカーを配置した音響と、楽曲の雰囲気合わせた空間演出が来場者を圧倒しました。



大分県警察アンバサダーとして活動した学生へ感謝状が贈られました

2月14日(火)、大分県警察の特殊詐欺被害防止啓発アンバサダーに就任した、専攻科音楽専攻声楽コース1年立石彩乃さんに感謝状が贈られました。

立石さんは同警察が制作した特殊詐欺被害防止啓発ソング「ひとりじゃないよ」を歌いプロモーションビデオへの参加や、主催イベントに出演する等の活動を行いました。

当日は大分県警察より、感謝状が贈られ、立石さんは「1年間アンバサダーを通じて、様々な経験をさせていただき、感謝しています。これからも被害防止のために歌を歌ったり、身近な人に教えていきたいです」と話しました。



地域巡回演奏会を開催しました

9月13日、15日の2日間、中津市立如水小学校と、別府市立鶴見小学校を訪問し、地域巡回演奏会を開催しました。

音楽科、専攻科音楽専攻の学生が児童や先生方を前にオペラハイライト、ピアノソロ、器楽アンサンブルを披露しました。

児童は普段聞くことのない音楽の生演奏に、自然と身体が動いて手足や首をリズムカルに振ったり、聞きなれた音楽に歓声が上がると、とても楽しんでいました。



Opera Piena di Vita 『現代版オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」』を開催しました

12月23日(金)、本学音楽ホールにて、オペラサークル「Opera Piena di Vita」による『現代版オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」』を開催しました。モーツァルト作曲の喜歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」を、芸文短大を舞台に作り上げたオリジナル台本・演出とイタリア歌曲で上演しました。

大学ならではの出来事になぞらえたストーリーに加え、大分の方が飛び出すコミカルな動きとスマートフォンを使った学生ならではの演出に、来場者も楽しく観劇していました。



小林道夫客員教授声楽特別レッスンを開催しました

1月14日(土)、15日(日)の2日間、本学音楽ホールにて「小林道夫客員教授声楽特別レッスン」を開催し、専攻科音楽専攻の学生が受講しました。

学生一人ひとりに、演奏曲の歴史、譜面の読み解き方とその表現手法、発音の他、伴奏者にも演奏表現等をご指導いただきました。



1回の舞台経験は100回の練習に勝る!

音楽科ではこの言葉をモットーに、できるだけ多く本格的なステージに立って演奏する機会が学生たちに与えられています。今年度もさまざまな演奏会を開催しました。その一部をご紹介します



音楽科では「1回の舞台経験は、100回の練習に勝る」をモットーに、音楽科コンサートシリーズなどを開催しました。9月には前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」写真①を開催。10月には学科総動員の「第58回定期演奏会」②、11月以降は各コースの特色あふれる「作曲作品展」③「ピアノコース演奏会」④(11月)、「管弦打コース演奏会」⑤(12月)、「声楽コース演奏会」⑥(2月)を開きました。また、年度末には1年間の集大成である「第61回卒業演奏会」、専攻科音楽専攻「第39回修了演奏会」を下記のとおり開催します(3月17日、19日)



卒業演奏会・修了演奏会のお知らせ

- 卒業演奏会 3月17日(金) iichiko音の泉ホール 18:00開演
- 修了演奏会 3月19日(日) iichiko音の泉ホール 18:00開演



さまざまな国際交流や魅力ある講義を実施

Think Globally, Act Locally. 国際総合学科は幅広いフィールドで学びを実践しています。

令和4年(2022年)は国際総合学科にとって記念すべき年でした。本学科の前身である国際文化学科が平成4年(1992年)に創設され、今年30周年を迎えました。また、国際文化学科を改組して、「国際コミュニケーション」「観光マネジメント」「現代キャリア」からなる3コースを導入し、国際総合学科がスタートしたのは平成25年(2013年)のことでした。つまり、来年、国際総合学科は10周年を迎えます。本学科にとって、今年はまだに節目の年でした。



対面で実施したオープンキャンパスでは、教員による学科紹介だけでなく、さまざまな学外活動に取り組んでいる在学生たちが自分自身の経験を含めながら活動内容の発表をしてくださいました。

世界中にまん延した新型コロナウイルスへの対策は依然として必要な状況ですが、学生の安全・安心を最優先に考え、十分な感染症対策を検討した上で、カリフォルニア大学デビス校で行われるアメリカ語学実習の再開を決定しました。また、通常授業の多くも対面で実施されています。

さらに、大分国際車いすマラソンでは学生たちが海外選手の通訳ボランティアとして活動したり、ゼミ研修では瀬戸内国際芸術祭2022の取り組みを見学するなど、課外活動としてキャンパスの外へ足を運ぶ機会もありました。

学生たちは、学内はもとより、国際交流活動や地域との連携、そして多くの人のコミュニケーションを通して着実な学びを実践してくれています。

教室で学んだことを外で活かし、外から受けた刺激を学びに活かす。

私たち国際総合学科のメンバーは、学生と教員が一緒になって、充実した学びの形を模索し、実践しています。



ビッグデータを活用したマーケティングの実践方法など、専門性の高い事業活動に従事している方々を外部講師としてお招きし、実践的な知識と力を養う授業も行っています。

学長企画『人文系学科30周年記念「定住旅行から見える世界の姿」』を開催しました

2022年11月8日、人文系学科30周年記念イベントの一環として開催した芸短フェスタイベントで、定住旅行家ERIKOさんが「定住旅行から見える世界の姿」をテーマとして講演を行い、国際総合学科1・2年生約115名が聴講しました。

モデル活動と並行しながら、ソーシャルメディアを用いて定住旅行家としても旅レポートを発信しているERIKOさんは、これまでおよそ50か国、109家庭で暮らす旅を続けています。

参加した1年生の木佐貫さんは、「定住旅行は、現地のことについて知れたり、現地の方との関わりが多いのでとても楽しそうだなと感じ、私もいつか海外に行きたいので、「定住旅行」も視野に入れて考えたい」と感想を述べました。



大分国際車いすマラソンにボランティア通訳として参加しました

2022年11月20日に行われた第41回大分国際車いすマラソンに国際総合学科1・2年生20名が通訳ボランティアとして参加しました。

大分滞在中の14か国から海外選手と付き添いの方、合わせて約50名のアテンド活動を、市民通訳会(Cando)のメンバーと一緒に行いました。

「このボランティアは私にとって一番成長させてくれた活動であり、忘れられない思い出になりました。選手の方やCandoの方から「助けてくれてありがとう」「とても助かった」という言葉をいただいて、とても心が温まり、さらに外国語を活かして沢山の人の役に立ちたいと思った。」と参加した1年生の前田さんがコメントを寄せました。



中津市でフィールドワークの報告会を行いました

1月15日(日)、「教養ゼミナール(秋ゼミ)」の受講生たちは中津市でフィールドワークの報告会を行いました。当報告会は、人手不足により放置されている果樹等、有効に活用されていない地域資源を昨年11月に調査し、その結果や地域課題を解決するアイデアを報告する目的で行いました。

学生たちは放置果樹の収穫など、体験に基づいた具体的なアイデアをプレゼンし、中津市役所の方から多くの質問が寄せられました。



現代教養科目「フィールドワーク実習」では安心院(大分県宇佐市)における農村・農泊体験を行いました。



観光学研究室の課外活動として、ラグビーの試合会場におけるSNS広報キャンペーンのサポート活動を行いました。



文化経済学研究室のゼミ研修では香川県直島町を訪問し、瀬戸内国際芸術祭2022の取組内容を見学しました。

地元と連携した活動の数々で 情報コミュニケーション力を研鑽

サービslラーニングをはじめ、学内外での活躍が光る情報コミュニケーション学科。
本誌で紹介できなかった活動を一部紹介します。

2年間の集大成「卒業研究発表」を開催!

2月1日、2日の2日間、本学大講義室で情報コミュニケーション学科卒業研究発表会を開催し、12研究室から47のテーマ発表が行われました。今年も、対面とオンライン(Noo3)を併用する形で実施し、発表後には教員及び在学生から活発な質問が交わされました。調査や取材には新型コロナウイルス感染症予防対策に気を付けながら行い、各研究テーマとも非常に内容の充実したものになりました。



2022年度は、前期・後期を通じて計42のサービslラーニングの活動を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響は昨年度より減りましたが、十分な感染症対策を講じながら活動を展開しました。大分県内各地に出向き、諸問題解決のために活動し、コミュニケーション力や協調性を向上させました(以下の写真は、撮影時のみマスクを外しています)。

以下にご紹介しきれない活動内容については、学科専用のホームページ、Instagramにて紹介していますので、右記のQRコードからぜひご覧ください。



ホームページ



Instagram



「とうきび収穫・販売・加工支援」
(竹田市)

少子高齢化が進む竹田市において、とうきびの収穫・加工・販売を行いました。



「親子ふれあい広場の開催」(大分市)

市内の園児に書いてもらったイラスト約900枚をキャンドルにし、府内五番街商店街を盛り上げました。



「竹楽支援」(竹田市)

3年振りに通常開催となった竹楽で、デザイン、竹灯籠の点火・消火などの支援を行いました。



「野津原における遊歩道整備と食レポ支援」
(大分市)

トレイルランニングの開催に向け、遊歩道整備と野津原の飲食店や名産物の情報発信を行いました。



「くちなしの実収穫支援」(大分市)

高齢化・過疎化が進む福宗地区でくちなしの収穫支援を行い、伝統料理について学習しました。



「大分中心市街地歴史探索および清掃」
(大分市)

学生が自ら企画・準備をして、大分市中心部の歴史を学びながら清掃活動を行いました。



「おおいた活性化ネットワーク」(大分市)

大分青年会議所の皆さんと定期的に会議を重ね、日本青年会議所全国大会において「学生の描く未来図」の会場で各種発表を行いました。



「七夕ブロードウェイ」(大分市)

大分青年会議所の皆さんと協力し、400個のらんたんを夜空に放ち、イベントを盛り上げました。



「別府市内の清掃」(別府市)

別府市の市街地および海岸を、歴史や観光について学びながら清掃活動しました。



「古代米の収穫支援」(竹田市)

より付加価値のある農産物のブランド化を目的として、古代米の収穫支援(掛け干し)を行いました。



「アスパラガスの収穫支援」(由布市)

アスパラガスの収穫支援を行うとともに、新たなアスパラガス料理の情報をSNSで発信しました。



「赤い羽根共同募金プロジェクト」

芸短大オリジナルボールペンを作成し、大分県内で募金活動を行いました。過去最高の募金額を集めることができました。



「おおいた夢色音楽祭」(大分市)

2日間にわたり音楽祭を盛り上げるため、スタッフやMCとして活動に参加し、地域活性化に取り組みました。

研究発表 一例



- ・非行と家族に関する文献研究ー福祉施設と少年院の子供の比較ー
- ・男女別で体育を行うことへの意識ーLGBTQの人たちにできる配慮は何かー
- ・音楽授業体験と創造性態度の関連ー大学生の調査を中心にー
- ・コロナ禍の生活スタイルとストレス
- ・ルッキズムに悩む現代の人々
- ・大分県竹田市における高校生の地元愛着と就職に関する意識調査
- ・日本社会における「世間という存在」ー世間が個人の意思に与える影響についてー
- ・商店街の多様性ー全国の商店街の類型化をもとにー
- ・ふるさと納税の返礼品を対象とした自作アプリのPR力
- ・次世代教育を担う教育現場に必要な著作権知識の普及ー県内の学校を対象とした知識調査からー
- ・企業ブランディングにおけるアニメCMの有用性
- ・中小企業の販売促進における映像コンテンツ活用ーライブコマースの特徴から見た考察ー



竹田キャンパス通信

Taketa Campus Correspondence

竹田キャンパスは、ゼミやサークルでの合宿、創作活動の拠点として竹田市に2010年4月にオープンした、芸文短大と地域との交流の場です

先日漫画でよくある焼き方で鶏の丸焼きをしたいと学生が言ってきたので竹田キャンパスで実行して美味しくいただきました。終わり：ではなく、そのセットを自分で考えて、作る、といった行為の大切さです。自分達の楽しみのために発想↓思考↓制作↓実行。自主的に行う制作には課題とは違うこだわりや経験の学びがあります。そして、そこには物作りのすごく大事な基本が詰まっています。遊び事ではないんです。作る、といった行為を通じて心の豊かさをこれからもどんどん高めていってほしいです。いや、美味しくかった。非常勤講師、大学OB 前田 亮二



学内ギャラリー作品介绍

11/10 ~ 11/24
「心典展」
専攻科 造形専攻 2年 吉田 怜桜

11/25 ~ 12/6
「竹の造形習作展」
美術科 デザイン専攻 1年

11/28 ~ 12/9
「(花子)3-ハナコ サンジョウ-」
専攻科 造形専攻 1年 村田 華子

12/8 ~ 12/23
「HAXAD - 6人展」
専攻科 造形専攻 1年、2年

1/12 ~ 1/20
「進級制作展」
美術科 美術専攻 1年
専攻科 造形専攻 美術コース1年

Geitan News

2023 Spring Vol.70
OITA PREFECTURAL COLLEGE
OF ARTS AND CULTURE
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

本学学生を対象としたフードドライブに取り組みました



1月23日(月)〜25日(水)、本学工房棟にて、賞味期限の迫った備蓄品や食料品等を配布するフードドライブを実施しました。
大分銀行・フードバンクおおいた・本学教職員から寄贈いただいた、みそ汁や菓子、マスク、石けんなどの食料品、生活用品およそ10000点と、玄米300kgを学生希望者に配布。多くの学生が集まり、喜んでいただきました。
本学では、昨年の9月から3回に渡り、フードドライブを実施しています。

専攻科	音楽科
2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 【入選】黒崎美羽(造形専攻1年 ビジュアルデザインコース) おおいデザイン・エイド2022 【学生賞】黒崎美羽(造形専攻1年 ビジュアルデザインコース) 全日本学生音楽コンクール北九州大会本選 【第3位】岩間愛弥(音楽専攻2年 声楽コース) 第28回宮日音楽コンクール 【最優秀賞】上ノ瀬結夏(音楽専攻1年 管弦打コース) 第2回国際声楽コンクール東京 【本選 大学生部門 奨励賞】梅本遥(音楽専攻2年 声楽コース)	第50回大分県音楽コンクール 【管打楽器部門 金管大学・一般の部 第3位】 岩下由依(2年 音楽総合コース) 【ピアノ部門 大学・一般の部 第2位】 (1位該当者なし) 森本さくら(2年 ピアノコース) 第18回中津 An die Musikピアノコンクール 【第3位】森本さくら(2年 ピアノコース) さいたピアノコンクール フリー部門Gコース (プロフェッショナル) 【優秀賞】松本美月(2年 ピアノコース)
美術科	
おおいデザイン・エイド2022 【学生賞】前園あすみ・近藤里菜・中尾美怜(3名とも 1年 デザイン専攻)	第32回日本クラシック音楽コンクール地区本選会 【優秀賞(全国大会出場推薦獲得)】 松本美月(2年 ピアノコース) 第28回フッペル鳥栖ピアノコンクール 【ジュニア部門Aコース 大学・一般の部 入選】 (1位該当者なし、4位相当) 岡友萌音(1年 ピアノコース) 第39回JPTA日本ピアノ教育連盟 ピアノ・オーディション 【九州北部地区 D部門 奨励賞】 岡友萌音(1年 ピアノコース)



宮内庁料理長の仕事の仕方



学長
小手川 大助
似顔絵:学長秘書 首藤尚子

私が国際通貨基金の日本代表理事の時に、予算の削減で毎年開催するパーティーの費用が半分になった。情報収集には極めて重要なパーティーで、招待客が楽しみにする日本料理の質を落とすわけにもいかず、招待客から会費を徴収することにした。これでは参加者が減る可能性がある。色々考えた末に、宮内庁大膳であり東大外科医でもある秋山さんに自費でワシントンに来てもらい調理してもらったことにした。
土曜日のパーティーのために水曜日に到着した秋山さんに日本食品のスーパードで食材の吟味をしてもらい、お眼鏡にぎりぎり叶うものを買って水曜日から調理にかかった。天ぷらやソバ、鶏のスープに大根や刺身などを作ってもらった。当日の午後になって最後の刺身の準備を整え、6時開始のパーティーのために3時頃から盛り付けを始めた。秋山さんはかわれを一本一本吟味し、葉が黄色味を帯びているものは取り出して緑のものだけを大皿に盛り付け始めた。いつまでかかるか心配したが、ちゃんとパーティーの30分前には盛り付けが終わった。私にとり「慌てずに淡々と仕事を進めれば案外短い時間で仕事は終わる」という貴重な経験を貰った機会だった。

学長コラム

生きる欣び



新しく学友会会長になりました、国際総合学科1年の利光菜花です。
学友会は、現在16人で活動しています。来年度も新入生歓迎会や芸短祭などのイベントを行う予定です。皆さん楽しんでいただけるよう、協力して頑張ろうと思います。3月には先輩方の卒業パーティーを行う予定です。また、ぜひお越しください。
また、学友会メンバーは随時募集中です。私達と共に芸短を盛り上げませんか？

Twitter: @GakuyuGeitan
Instagram: @geitandayoo

学友会情報